



特集①

保健師の 「プロフェッショナリズム」 を考える

ジレンマを抜け出し、気持ちよく働くために

保健師がさまざまな矛盾に悩んでいます。避けがたいものも多く、これをうまく乗り切るためには、プロとしての「ちえ」が必要とされます。

健康観や職業観に「揺れ」のあるこの時代にあって、コアコンピテンシーをフルに発揮しつつ、プロフェッショナリズムを確立することは、保健師にとって重要な課題と言えましょう。

本特集では、保健師がこれまでに蓄積してきたアセスメント、コミュニケーション、人間関係づくり、調整能力、政策形成などに関するナレッジを見直し、既存の発想にとらわれない、柔軟な仕事の方向性を探ります。